

令和 6 年度
年次報告書

ANNUAL REPORT

一般財団法人
東海産業技術振興財団



はじめに

私たちは1987年の設立以来、35年以上にわたり東海地域の大学や企業の研究者へ約500件、8.5億円の研究助成を実施してきました。

近年、AIの急速な普及などIT技術の進展が社会に大きな変革をもたらす一方で、日本の国際競争力は低下しています。

この状況を打開するには、大学の挑戦的な研究を中心とした産学官連携の強化が不可欠です。

当財団はこれまでの活動で培ったネットワークを最大限に活用し、社会のニーズに応える形で変革を進め、東海発のイノベーション創出を通じて産業技術の発展に貢献してまいります。

1. 研究助成事業への取り組み



東海地域（愛知・岐阜・三重・静岡）の新進気鋭の研究者を支援するための研究助成を行っています。

- ・一般発展型（最大200万円／2年間）
- ・研究育成型（最大100万円／1年間・40歳以下）

令和6年度は、応募46件の中から18件を採択し、合計2,060万円を助成しました。

研究助成交付伝達式では、採択者の研究テーマや過年度採択者の研究進捗についてのプレゼンテーションを行うなど、他の研究者・企業との連携の機会創出にも注力しています。

研究助成件数・金額の推移

令和6年度は、16機関（大学14、公設試1、企業1）から46件の応募があり、令和元年以降では最多となる18件の研究助成を行いました。40歳以下の若手を対象とした研究育成型が応募件数、助成件数ともに伸びました。

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	創立来
一般発展型	5	5	5	7	3	-
研究育成型	10	11	11	9	15	-
助成件数合計	15	16	16	16	18	512
助成金額（万円）	1,923	1,920	1,980	2,160	2,060	85,573
応募件数合計	52	59	48	38	46	2,141

2. 研究成果の普及と産学官連携



採択研究の成果を広く共有するとともに、産学官連携を強化するため、以下の取り組みを実施しています。

- ・研究完了報告書を財団ホームページにて公開
- ・産学官連携イベント「超異分野学会豊橋フォーラム2024」へのブース出展
- ・過年度採択者へのアンケート調査

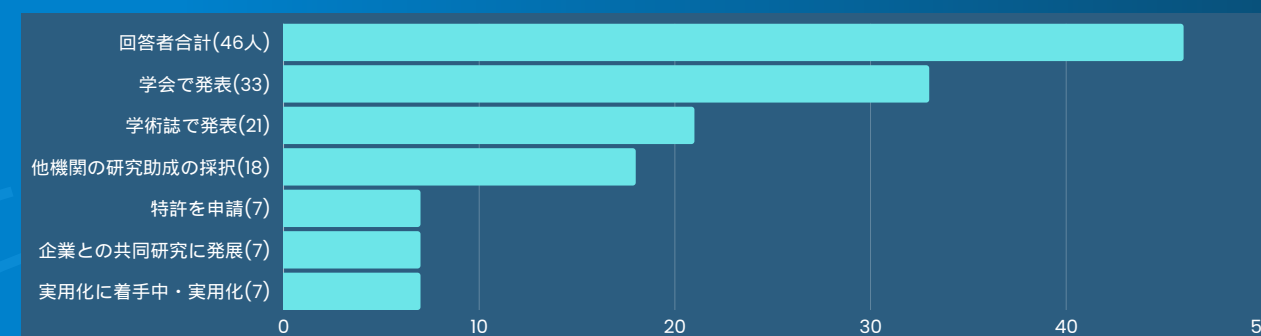
アンケートは毎年行うこととし、研究者の声を広く収集することにより、研究助成プログラムをはじめとする財団事業の充実に努めています。

過年度採択者へのアンケート結果

助成研究期間終了後1～3年の採択者46名を対象に、研究の進捗状況、本財団の助成制度に対する意見等を収集した結果は以下のとおりとなりました。

01. 多くの採択者が学会や学術誌等での発表を行い、特許申請や実用化へ向けた企業との共同研究等に発展し、実用化を達成したのもあった。
02. フェイズに応じて他の研究機関の研究助成を受け、研究成果を追求している。本財団の助成研究をもとにJSTさきがけの4,000万円の助成に発展したのもあった。
03. 創業において国内屈指の製薬会社と共同研究に発展、特許取得とともに米国・欧州への移転を行ったものもあった。

研究テーマの主な進捗状況



- ・本財団の助成制度は、東海地域の研究者にとって重要な支援となっている。
- ・若手研究者の挑戦的な研究を支援し、地域産業への貢献も期待される。
- ・研究成果の実用化に向けた支援の強化が今後の課題。

資産の状況



当財団は公益目的財産として設けた資産より、毎年度の研究助成金を拠出しています。

また、安全性と収益性のバランスのとれた社債等による資金運用を行うことで、財団の健全で適切な運営に努めています。

財団概要

●沿革

1987年7月 設立

※設立時基本財産 10億円

2012年4月 公益法人制度改革に伴い

一般財団法人へ移行

●代表者

理事長 神野 吾郎

(一般社団法人 中部経済連合会副会長)

●出捐者

東海地域の9自治体（愛知県、静岡県、豊橋市、豊川市、蒲郡市、田原市、新城市、浜松市、湖西市）

企業、個人等

計100者

愛知県豊橋市西幸町字浜池333-9 豊橋サイエンスコア 1 F

TEL 0532-47-3030 FAX 0532-47-3032

mail:tft@tsc.co.jp

<https://tft.or.jp/>

